

2019年12月27日 3面

文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#) [印刷](#) 

大林道路・双葉住コンJV／福島県双葉町で合材プラントが操業／復興産業拠点区域で初



現地で火入れ式が行われた

大林道路・双葉住コンJVが福島県双葉町に建設していた合材プラント工場「双葉中央アスコン」が完成し、21日に現地で火入れ式が行われた。東日本大震災からの復興の先駆けとなる「働く拠点」として整備された中野地区復興産業拠点区域内に位置する。同区管内で操業を開始する初めての施設となる。

双葉中央アスコンの所在地は塚ノ前6。火入れ式には双葉住コンの川中茂取締役や添田彰双葉中央アスコン所長、大林道路の福本勝司社長、濱田道博代表取締役副社長らが出席。来賓として伊澤史朗双葉町長や吉野正芳衆院議員、増子輝彦参院議員らも同席した。

施設の製造能力は1時間当たり新規合材60トン、再生合材90トン。貯蔵能力100トンの合材サイロ1基も備える。施設内にはがれきを受け入れて処理する中間処理施設も整備。2020年度の完成を予定している。

火入れ式で伊澤町長は「双葉中央アスコンの操業開始は町としても復興に向けた大きな一歩になると考えている。中野地区に立地する企業や関係者の皆さまとともに、必ず双葉町の復興を成し遂げていきたい」とあいさつした。

川中取締役は「当アスコンの営業テリトリーである双葉郡地域には今なお帰還困難区域が残っている。当企業体と社員一同が『復興・復旧・地域に根差した企業』を目指して今後とも努力していく」と意気込みを語った。大林道路の福本社長は「双葉町が目指す来年春の一部地域での避難指示解除、特定復興再生拠点区域内への立ち入り制限規制緩和、22年春の特定復興再生拠点区域全域の避難指示解除に向けて、町民の皆様安心して帰還いただくために、帰還環境整備事業と魅力的な街づくりに全力で取り組む」と述べた。

[閉じる](#)

記事ID : 3201912270303

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます